
キミちゃんと彼女のずれていく雪の見え方。

木の実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミちゃんと彼女のずれていく雪の見え方。

【Nコード】

N7369P

【作者名】

木の実

【あらすじ】

『キミちゃん』こと『私』と、隣にいる『彼女』の意味のない会話の断片。

分かりあえている、と思いこんでいる彼女。
分かりあいたい、と願っているキミちゃん。

ただ二人は、話せば話すほど、修正不可能なくらい大きくずれていく。

あ、初雪。

外を見て、無感動にそう思う。

そういえば、雪にワクワクしなくなったのはいつからだっただろうか。

昔は、美しい特別な何かが降ってきているように感じていたのだけれど。

今は。

「まるでホコリが降っているみたいだ」

え？と隣にいた子が聞き返す。

「ああ。雪のこと、だね。そうでしょう？キミちゃん」

「うん。よく分かったね」

私は頷いた。

彼女は私のことを『キミちゃん』と呼ぶ。

私の名前には『キミ』という言葉なんていつさい入っていないのにも関わらず、彼女は私をそう呼ぶ。

「雪をホコリに例えるだなんて。キミちゃんは、ロマンチストだねえ。ふふ」

「そうかな？夢がない、ってよく言われるけど」

「そんなことないじゃないかー。キミちゃんが言いたいことはさ。お空の上にいる天上人たちが大掃除していて、地上にホコリを落とすって、そういうことでしょう？なんたるメルヘン！アタシは心が震えたよ」

「……………」

この子は、ずれている。

感覚とか価値観、思考回路、感情、そういうものの全てが私とかけ離れている。

ああ。

絶対に、私たちは分かりあえないというのに。

分かりあえるはずがないのに。

彼女は当然であるかのごとく『そうでしょう？』と同意を求める。

だけど、それでもいいかな。

彼女が見ているのは、あくまで『キミちゃん』で。

決して私などではない。

だから、私は頷く。

否定も批判も非難もせずに。

ただただ、彼女に同意する。

「キミちゃん、聞いている？」

「うん、聞いているよ」

「あ、雪を食べてる子がいるよ。キミちゃん」

「本当だ」

小学生の男の子が口を開いて、空を仰いでいる。

「お空の水コリは美味しいのかな？きつと美味しいに決まっているよね。七色の味がするんだ。そうでしょう？」

「うん、きつとそうだ」

美味しいわけがない。

七色の味がするわけがない。

「楽しそうだねえ、キミちゃん。アタシはとても羨ましいよ。いっそ外に出てみようか。だけど寒いのは苦手なんだ」

「そっか」

私には、その少年がとてつもなく滑稽に見える。

死にそんな金魚のように、パクパク口を開いて。

口の中に入るのは、僅かな冷たさだけ。

何一つ満たされないというのに。

「ねえ、キミちゃん」

「ん？」

「キミちゃん」

「なあに？」

「なんだか、アタシ楽しくなってきたよ。きっと雪を見るたび愉快的な気持ちになるよ。キミちゃんのおかげだねえ。ふふ」

「そう」

私はきつと、雪を見るたび切なくなる。

私の、この何ともいえない真っ暗な気持ちを。

君にだけは誰よりも分かってほしいのに、決して伝わらない。

その事実をこの雪は思いださせるのだろう。

「あ。大掃除が終わったみたいだよ」

雪が、やんでいた。

「残念だねえ。アタシはちょっぴり寂しいよ。キミちゃんも、そうでしょう？」

「もちろん」

私はすごく、ほっとした。

（後書き）

意味分かんデス。
はい。

終わりが見えないから強制しゅっりょーっ！

でも、この二人なんか好きなので、気が向いたらまた短編でだすかも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7369p/>

キミちゃんと彼女のずれていく雪の見え方。

2010年12月31日05時05分発行